

江戸時代の中央区のすがた

江戸時代の地図を見てみよう。前のページにある現在の地図と比べてみると、どこがちがうだろうか。

右の地図は、江戸時代の後期1843（天保14）年に出された「御江戸大絵図」だ。地図をよく見ると、町名や人名らしい文字が書かれている。江戸時代の町なみはどんなようすだったのだろうか。



今みたいな町名はあったのかな？

どんな人が住んでいたのかな？

地図を見る前にちょっと読んで！

江戸時代がわかることから・用語

豊臣秀吉に關東移転を命じられ、1590（天正18）年、**徳川家康**が江戸城に入城したことを「入城」という。徳川家康は、ここを拠点に政治を行った（→p.16）。

上方
京都や大坂などの関西のこと。

堀割
地面を掘ってつくった水路。

この時代の大坂は、大坂と書いた。

大店
大きな商店のこと。

廻船
港から港へ荷物を運んで回る船（→p.38）。

町屋
商人や職人などの町人が住む一帯。

下りもの
上方から江戸に運ばれた高級品（→p.39）。

江戸時代は、身分によって住むところが決められていた（→p.22）。「〇〇ちょう」と読むところは、おもに町人が住んでいた。

江戸時代は新たに多くの町がつけられた時代だ。また、幕府の政策によって町がよく移転した。住んでいる人々が町ごと移った。

朝廷
天皇が政治を行うところ。

地金
金貨や銀貨など、貨幣の材料になった金属のこと。

旅籠
食事つきの宿屋。

五街道
日本橋を起点とした5つの街道のこと。東海道、中山道、日光街道、奥州街道、甲州街道（→p.25）。

老舗
代々続いて同じ商売をしている、由しよある店。

江戸城で政治が行われたため、江戸城の周りに大名や旗本たちがたくさん住んだ。地図にはそこに住んでいた大名の名前が書かれ、町名はつけられていない。武家屋敷（武家地）ともいわれる（→p.17）。

河岸
川沿いにあり、船からの荷物をあげ下ろしする場所であり、そのまま市場や倉庫となつたところもある（→p.39）。

広小路
幅の広い道で、明暦の大火のあと、火除地として広くしたところ。町名にもなっている（→p.32）。

火除地
江戸時代は火事が多かったため、防火対策用につくられた空き地。

江戸に勤務する武士は、全国から集められた（→p.19）。



次のページからエリアの解説がはじまるよ。

